

## 薬師寺泰蔵教授略歴

### 学歴

- 一九六四年 四月 慶應義塾大学工学部電気工学科入学
- 一九六八年 三月 同右卒業
- 一九六八年 四月 東京大学教養学部教養学科科学史及び科学哲学分科学士入学
- 一九七〇年 三月 同右卒業
- 一九七〇年 九月 ミネソタ大学（アメリカ合衆国）大学院政治学科入学（フルブライト奨学生、フォード財団奨学生）
- 一九七二年 六月 同右退学
- 一九七二年 七月 マサチューセッツ工科大学大学院政治学科博士課程入学
- 一九七五年 七月 同右修了
- 一九七七年 六月 マサチューセッツ工科大学 Ph. D.（政治学）取得

### 職歴

- 一九七七年 九月～一九七九年 三月 埼玉大学講師（行動科学情報解析センター）

- 一九七九年 四月～一九八七年 四月 埼玉大学助教授（行動科学情報解析センター、大学院政策科学研究科）  
 一九七九年 七月～一九八〇年 八月 経済企画庁経済研究所客員研究員  
 一九八四年 九月～一九八六年 六月 カリフォルニア大学バークレー校政治学科・東アジア研究所客員研究員（米国カウンシル・オブ・ラーントソサエティ招聘教授）  
 一九八七年 五月～一九九一年 三月 埼玉大学教授（大学院政策科学研究科）  
 一九九一年 四月～現在 慶應義塾大学法学部教授  
 一九九一年 七月～一九九二年 四月 ドイツ国際問題研究所（ボン）客員研究員  
 一九九二年 五月～一九九二年 六月 フランス国際関係研究所（IFRI）（パリ）客員研究員  
 一九九四年 四月～一九九六年 三月 東京大学先端科学技術センター客員教授  
 一九九四年 四月～一九九六年 三月 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科兼任  
 一九九四年 四月～一九九五年 三月 国際大学グローバルコミュニケーション・センター客員研究員  
 一九九五年 三月～一九九七年 五月 国際大学グローバルコミュニケーション・センター副所長  
 一九九七年 五月～二〇〇一年 五月 学校法人慶應義塾常任理事 兼 慶應義塾大学教授（法学部）  
 二〇〇〇年 ～現在 （財）世界平和研究所研究主幹  
 二〇〇三年 一二月～二〇〇九年 一月 内閣府総合科学技術会議常勤議員  
 二〇〇九年 一月～現在 慶應義塾大学法学部教授

## 薬師寺泰蔵教授主要業績

### 【著書】

(単著)

『政治家 vs 官僚—サプライサイド政治学の提唱—』

『テクノヘゲモニー—国は技術で興り、滅びる—』

『公共政策』

『テクノデタント—技術で国が減びるまえに—』

『「無意識の意思」の国アメリカ—なぜ大国は甦るのか—』

(編著)

『アジアの環境文化』(編著)

『グローバル・セキュリティ入門』(編著)

(共著、共編著)

『財政金融政策の効果とフリーリップスカーブ』(共著)

『経済・政治システムの構造分析—状態空間モデルの社会システムへの応用—』(共著)

東洋経済新報社 一九八七年

中央公論社 一九八九年

東京大学出版会 一九八九年

PHP研究所 一九九一年

日本放送出版協会 一九九六年

慶應義塾大学出版会 一九九九年

慶應義塾大学出版会 二〇〇五年

経済企画庁経済研究所 一九八〇年

経済企画庁経済研究所 一九八〇年  
日本経済新聞社 一九八一年

『社会科学における理論と現実—実証分析における一つの試論』(共著)  
*The American and Japanese Auto Industries in Transition* (共編)

The Center for Japanese Studies, The University of Michigan, 1984.

『国際関係理論の新展開』(共編)

東京大学出版会 一九八四年

『日本経済「知」の処方箋—新ソフトノミックスの時代』(共著)

TBSブリタニカ 一九八七年

*Europe and Japan Facing High Technologies* (共著)

Paris: Economica, 1989.

『日本戦略宣言—シビリアン大国をめざして』(共著)

講談社 一九九一年

*Beyond Interdependence: The Meshing of the World's Economy and the Earth's Ecology.* (共著)

New York: Oxford University Press, 1991.

『持続可能な成長の政治経済学—エコノミーとエコロジーの統合—』(共著、日米欧委員会日本委員会訳)

ダイヤモンド社 一九九一年

『成熟時代の日米論争』(共著)

慶應義塾大学出版会 一九九六年

『グローバル・デモクラシーの政治世界』(共編)

有信堂高文社 一九九七年

『国際政治事典』(共編)

弘文堂 二〇〇五年

【学位論文】

“Dynamics of Policy Interventions: The Case of The Government and the Automobile Industry in Japan  
c. 1900-c.1960.”  
Dissertation to Massachusetts Institute of Technology, June 1977.

【学術論文】

“National Support for Science and Technology: An Evaluation of Foreign Experience—Japan Monograph,”

Center for Policy Alternatives, Massachusetts Institute of Technology, CPA wp-75-8/7 JA, 1975.

「内部組織の状態空間モデル—公企業の動学的効果分析—」（共著）

経済企画庁経済研究所編『経済分析』第七七号、一九七九年

「道路投資の動学的意思決定過程の分析」（共著）

経済企画庁経済研究所編『経済分析』第七八号、一九七九年

「政策科学における政治学的視点（経済学とその周辺（特集）」

『経済セミナー』日本評論社、一九七九年

「制度改革の計量的分析…1つの方法的提案（（特集）国際関係）」（共著）

『オペレーションズ・リサーチ…経営の科学』社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会、

第二四卷八号、一九七九年

「国際政治における計量的な構造把握—現状と展望—」（共著）

日本計量行動学会編『計量行動学』第七卷第二号、一九八〇年

「ダール—ハルサー—型パワーモデルによる日米通商関係の動学的分析—昭和四二年から五二年までの日本の対米

カラーテレビおよび乗用車の輸出を例に—」

『国際法外交雑誌』国際法学会、第七九卷三号、一九八〇年

「技術国産化と政策介入—日本の例に見る自動車産業のアジア型定着—」

『東洋文化研究所紀要』東京大学東洋文化研究所、一九八一年

「計量分析—社会現象の計量化について—（システム科学と社会科学（特集）」（共著）

『計測と制御』計測自動制御学会、第二二卷三号、一九八二年

「技術革新と国際システムの変容—動学分析へ向けて—（テクノロジーと国際関係（焦点）」

『国際問題』日本国際問題研究所、一九八三年

- “The Government in Spiral Dilemma: Dynamic Policy Interventions vis-a-vis Auto Firms, c. 1900–c. 1960,”  
Masahiko Aoki, ed., *The Economic Analysis of The Japanese Firm*, Amsterdam: North-Holland, 1984.
- “Reshuffling Firms for Technology?: An Aggregate Time-Series Analysis of B. Klein’s “Dynamic Efficiency”, Masahiko Aoki, ed., *The Economic Analysis of The Japanese Firm*, Amsterdam: North-Holland, 1984.
- 「政策分析におけるモデリングの諸問題」 『日本政治学会年報政治学』岩波書店、一九八三年
- 「政治学における近代的モデリング—リチャーズン・モデルを中心として—」  
山本吉宣他編『国際関係理論の新展開』東京大学出版会、一九八四年
- “A Measurement of Efficiency for Internal Organization: A Study of The Three Japanese Public Corporations,” (共著)  
The Behavioristic Society of Japan, ed., *Behaviormetrika*, No. 16, 1984.
- “The Dynamics of Techno-Industrial Emulation: Industrial Pre-eminence and U.S.-Japanese Conflicts in High Technology,”  
The Berkeley Roundtable on the International Economy, Institute of International Studies, The University of California at Berkeley, Working Paper # 15, 1985.
- “Policy, Corporate Ideology, and the Auto Industry,” John C. Campbell, ed., *Entrepreneurship in A Mature Industry*, The Center for Japanese Studies, The University of Michigan, 1981.
- 「エミュレーション・ダイナミックス—国家と産業技術—」 『国際政治』第八二号、一九八六年
- 「欧米企業の技術開発とエミュレーション（日本の科学技術の将来—その政策・戦略と課題（特集）—」（技術開発の系譜と技術展開の方向）」 『化学と工業』日本化学会、第四〇巻七号、一九八七年
- 「準備会セミナー：科学技術の国際問題分科会」 『研究技術計画』研究・技術計画学会、第二巻一号、一九八七年
- 「国際問題分科会」 『研究技術計画』研究・技術計画学会、第二巻二号、一九八七年
- 「科学技術の国際問題分科会」 『研究技術計画』研究・技術計画学会、第三巻、一九八八年

“The Politics of High Technology,”

Hans W. Maull, ed., *Japan and Europe in Interdependent World*, The JCIE Papers, 1988.

“Political Factors in Shaping Japan’s Foreign Economic Policy,”

The International Spectator, The Instituto Affari Internazionali, Vol. XXIV, No. 3/4, July–December, 1989.

「テクノヘゲモニーと日本の技術（特集）日本製造業の知恵」

『オペレーションズ・リサーチ・経営の科学』社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会、第三五卷一―号

一九九〇年

“Political Constraints in Japanese Policymaking,”

Alan D. Romberg, et. al., eds, *Same Bed, Different Dreams: American and Japanese Societies in Transition*,

Council of Foreign Relations Press, 1990.

「技術の国際関係―テクノヘゲモニーから見た日本の技術―」

一橋大学産業経営研究所編『ビジネスレビュー』第三七卷二号 一九九〇年

“Beyond Interdependence: The Meshing of the World’s Economy and the Earth’s Ecology,” (共著)

A Report to the Trilateral Commission, April 1990.

“Beyond Competitiveness,”

Peter Gourevitch, et. al., eds., *New Challenges to International Cooperation*, University of California, 1993.

「序説 国際政治学のマルチメディア的転回（マルチメディア時代の国際政治）」

『国際政治』日本国際政治学会、一九九六年

「プログラム型国際政治学」

添谷芳秀、赤城完爾編『冷戦後の国際政治―実践・政策・理論―』慶應義塾大学出版会 一九九八年

「情報通信革命と国際政治」

添谷芳秀編『二一世紀国際政治の展望』慶應義塾大学出版会 一九九九年

「パブリックガバナンスと政策評価に関するいくつかの問題点（テーマ：パブリックガバナンスと新行政評価システム）」

『計画行政』日本計画行政学会、第二二卷四号 一九九九年  
「新しい人文・社会科学研究の拠点―慶應義塾大学グローバル・セキュリティ・リサーチセンター（特集 東京情報大学ハイテクリサーチセンター国際シンポジウム『人類存続の条件』）」

『東京情報大学研究論集』東京情報大学教育研究情報センター、第四卷一号 二〇〇〇年  
「国際関係分野ドキュメント群を対象とした意味的連想検索のための空間生成方式」（共著）

『日本データベース学会 Jaltas』日本データベース学会、第二卷一号 二〇〇三年  
「科学技術政策の現場」 『公共政策研究』日本公共政策学会、第七号 二〇〇七年

「環境関連諸学会に期待するもの（『環境科学会』設立二〇周年記念シンポジウム）」

『環境科学会誌』環境科学会、第二一卷四号 二〇〇八年